

## 【第 7 回持続可能性有識者委員会 資料】

### 2026年 4 月以降のサステナビリティ関連の取組

2026.9.14 2027 年国際園芸博覧会協会



## (前半の説明)

- 1 ISO 20121認証取得
- 2 カーボンニュートラル
- 3 会場内のグリーンインフラ
- 4 持続可能性に配慮した調達コード
- 5 サーキュラーエコノミーの取組
- 6 リフィル・サーキュラープロジェクト
- 7 廃棄物管理
- 8 植物の再利用

## (後半の説明)

- 9 アクセシビリティの取組
- 10 ジェンダー平等・女性活躍推進
- 11 協会内研修
- 12 運営スタッフ研修
- 13 主催者展示
- 14 協会主催テーマフォーラム
- 15 「環共」プログラム
- 16 GREEN×EXPOコンペティション
- 17 エンゲージメント

1

ISO 20121認証取得

# ISO 20121認証取得

ISO 20121は、イベントにおける目標を達成するため、環境・社会・経済への影響を統合的に管理し、計画・実行・評価・改善（PDCA）のプロセスを通じて適切に運用するための国際規格。

2026年6月に、**国際園芸博覧会として初めてISO 20121の認証を取得した。** ※参考記事：[【取材】BSIグループジャパン担当者に聞く。GREEN×EXPO 2027のISO 20121認証に見るMICE業界の持続可能なイベント運営とは？ - MICE TIMES ONLINE](#)



2

カーボンニュートラル

# 環境に配慮した、持続可能な運営（カーボンニュートラル）

## 1 再生可能エネルギーの活用

GREEN × EXPOで使用する電力の大部分で再生可能エネルギー由来の電力を調達予定



✓開催地の神奈川県内で発電された再生可能エネルギー電力とその環境価値を一体的に調達

## 2 環境配慮型燃料の活用とオフセット

使用する燃料は、環境に配慮した選択を徹底



バイオ・リニューアブル燃料の活用  
廃食油由来の燃料を使用し、  
CO2排出を低減



カーボンニュートラル燃料の活用  
化石燃料使用時は、Jクレジット等  
によりオフセット済の製品を使用



✓ 対象燃料の使用に伴うCO2排出量をオフセット

## 3 カーボンニュートラルLPガスの活用

会場内のLPガスは、  
全量オフセットを目指す



カーボンニュートラル  
LPガスを使用

- ✓ カーボンニュートラルLPガスの使用促進
- ✓ 供給サプライヤーと連携し、オフセット済のLPガスを安定供給
- ✓ 全量オフセットを協会が確認・整理

### 透明性の確保と信頼性の向上



排出量の事前算出  
(想定される活動・設備  
ごとの排出量を算定)



排出量実績値を整理  
(電力・燃料・ガス等  
の使用実績を収集)



オフセットの実施  
(クレジットの活用により  
Scope1, 2をオフセット)



情報開示・報告  
(算出結果やオフセット  
状況をレポート等で公表)

あらゆる取組を通じて、環境負荷の最小化と持続可能な未来の実現を目指す

3

会場内のグリーンインフラ

## 会場内のグリーンインフラ

会場が有する地形、水、風、緑などの自然環境ポテンシャルを取り入れた会場整備を推進。

### 流域と水景の保全と活用

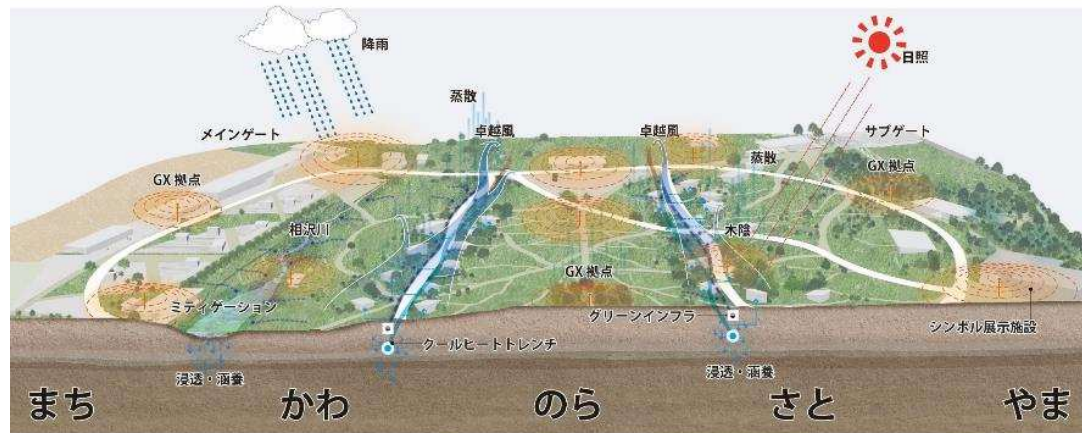
会場内に流れる相沢川、和泉川を保全。相沢川は多様な生物が生息できるよう、自然素材を活用した水辺環境の整備や水田・畑の整備

### 既存樹木を生かした会場整備

会場内や周辺にある約1,600本以上の樹木をより良い生育環境へ移植し、それらを生かし園路線形や施設配置を工夫

### バイオスウェルの整備

公園の整備に合わせ、芝生や草花を植えた雨水をためる場所を会場内に約140箇所設置  
雨水をゆっくり地面にしみ込ませ、下水に流れ込む量を減らし、園内の植物が健やかに育つ環境をつくる



グリーンインフラの実装イメージ



バイオスウェルの整備

4

持続可能性に配慮した調達コード

## 持続可能性に配慮した調達コード：運用状況

- 出展等に関連する契約件数の増加。
- 開催に向けた、本格的な準備段階へ移行。

チェックシート 提出件数（年間）



### ➤ 問合せ件数：

- ・前年度と比べ、問い合わせ件数が急増。
- ・問合せ内容は、具体的な調達に関する相談へ変化。

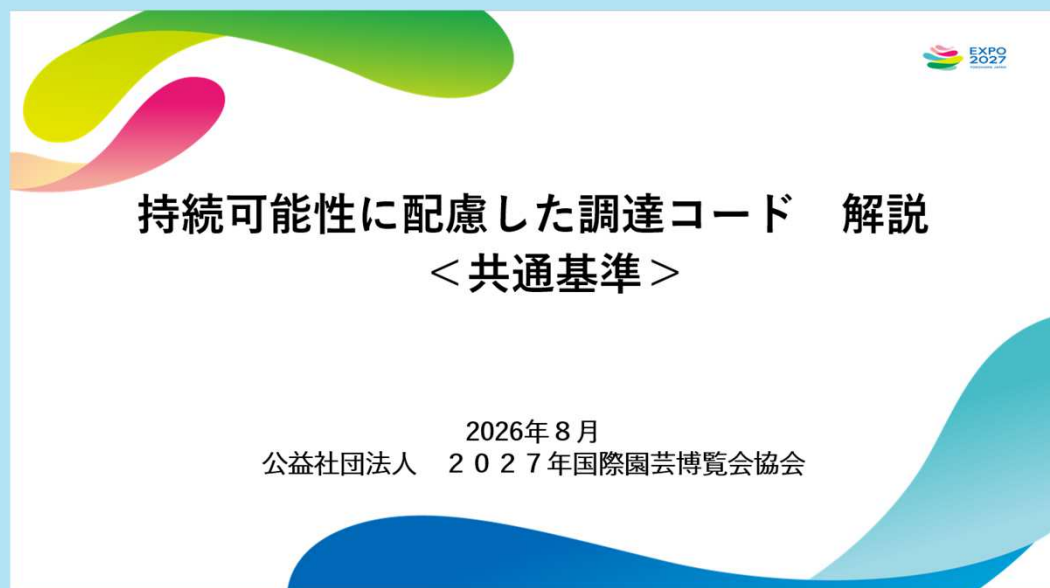
### ➤ 問合せ内容：

- ・認証を取得した農産物の確保方法。  
→各種説明会、農水省の説明会などで関係者に周知。
- ・リユース木材使用時の調達コード上のルール。  
→回収経路等のトレーサビリティ確保、譲渡事実の確認等。
- ・植物の個別基準別紙の遵守方法。  
→みどり食料システム戦略に資する取組のご案内。

# 持続可能性に配慮した調達コード：解説の策定

- 調達コードの円滑な運用に向け、8月21日に解説資料を作成・公表。
- 出展者・出店者等への周知を通じて、関係者の理解促進と取組の質の向上を図る。

解説には、共通基準・個別基準の具体的な説明を記載。



サプライヤーに求められる書類等



【参考】パーム油について

パーム油は、アブラヤシの実からとれる植物油です。オレンジ色の果肉の部分を押って得られるパーム油と、白い種子の部分から得られるパーム核油があります。主な生産地はインドネシアやマレーシアといった熱帯地域の国であり、日本に輸入されるパーム油の約8割はマレーシア産です。単位面積当たりの収穫量が大きく、かつ、年間を通じて安定的に収穫できるという特徴があります。

パーム油は常温で半固体であり、様々な加工が可能であるため、加工食品、マーガリンや揚げ油、石鹸・洗剤等の原材料として幅広く利用されています。一方、成分表示上は、「植物油」と表記されたり、「ショートニング」などの加工品名や「オレイン酸」などの化学成分名で表示されたりするため、パーム油が使用されていることがすぐにはわからない場合がほとんどです。

また、パーム油やPKS（Palm Kernel Shell：パーム核油の圧搾後に出る殻）は発電燃料として使用される場合もあります。



パームの木（農園の風景）    パームの木と果実    パームの果実    パームの実の断面  
オレンジの部分→パーム油    白い部分→パーム核油

※出典：東京2020大会 持続可能性に配慮した調達コード解説

5

サーキュラーエコノミーの取組

# サーキュラーエコノミーの取組

2025年3月に策定した「資源循環の考え方」（30頁）について、関係者の皆さまに実践いただきやすいよう、内容をわかりやすくまとめた補足資料を作成した。



「資源循環の考え方」  
2025年3月策定



出展・出店の  
みなさまに、お伝え  
したいこと

①プラスチックの使用を最小化し、環境負荷が低い代替素材（植物資源）を使用。

②（プラスチックの）使用が必要な場合は、**バイオプラスチック**等を使用し、リサイクル。

● GREEN×EXPO2027にふさわしい取り組み(物販・飲食)

| レジ袋 |                                  | 飲食・食器 |                                   |
|-----|----------------------------------|-------|-----------------------------------|
|     | レジ袋の無料配布の禁止                      |       | 食器や皿、箸、カトラリーを店舗で洗浄して繰り返し利用        |
|     | エコバッグの持参・使用を推奨                   |       | リユース食器をレンタルして利用する                 |
|     | 紙袋や自然素材の袋を有料販売                   |       | 使い捨て食器（ワンウェイ）を使う場合は、植物資源の素材のものを使う |
|     | やむを得ずレジ袋を使用するときは、バイオプラスチックのものを提供 |       | バイオプラスチック以外のプラスチックを使わない           |
|     |                                  |       | 割り箸は国産の木材や竹を使う                    |

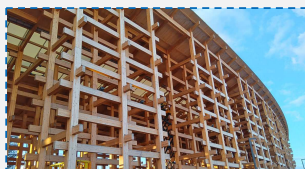
「資源循環の考え方 補足資料」

# サーキュラーエコノミーの取組



GREEN×EXPO 2027では、大阪・関西万博の大屋根リングの木材、パビリオン等の資材、会場内の樹木等を引き継ぎ活用する事例を対外発信した。

大阪・関西万博の大屋根リング  
⇒GREEN×EXPO 2027でベンチやウッドデッキ、  
シンボルとなるタワーへ



(出典：2025年日本国際博覧会協会HP)



「KAJIMA TREE」  
完成イメージパース  
(提供：鹿島建設株式会社)



ベンチとしての活用例  
(提供：2025年日本国際博覧会協会)

大阪・関西万博のパナソニック  
グループパビリオン「ノモの国」  
で使われた鉄製ファサード  
⇒東邦レオ  
「やさしくなりたい。STUDIO」  
へ

Urban GX Village 東邦レオ



【画像提供】  
永山祐子建築設計 ※現時点でのイメージです

大阪・関西万博のアイランドパビリオン  
⇒GREEN×EXPO 2027のメインゲートへ



大阪・関西万博のアイランド館

メインゲート



【画像提供】TSP太陽株式会社  
※現時点でのイメージです

大阪・関西万博のウーマンズパビリオン  
⇒GREEN×EXPO 2027の屋内出展施設へ

屋内出展施設



【画像提供】  
永山祐子建築設計 ※現時点でのイメージです

# 6

## リフィル・サーキュラープロジェクト

## 1 酷暑時代の大規模イベント運営に向けた「科学的暑熱対策」

日本ヒートアイランド学会及び国立環境研究所気候変動適応センターとの連携により、会場内の暑熱環境を把握し、暑さ指数WBGTを踏まえた給水案内、スタッフ対応を連動させる仕組みの構築を目指し、その成果を普及・展開する。

屋外空間を多く含む会場特性を踏まえ、来場者のみならず、運営スタッフ、ボランティア、関係者の安全確保に向けた会場運営における暑熱対策を、経験則だけに頼らず、データに基づいて判断・実行する体制づくりを進める。

## 2 「削減」ではなく「参加」と「貢献」を可視化する「リフィル文化の提案」

本プロジェクトでは、来場者の行動を制限するのではなく、マイボトルを持参し、会場で給水し、必要に応じて粉末・スティック飲料等を活用する行動を、前向きな参加として促進する。

そのため、従来の「削減量」だけに着目するのではなく、マイボトル利用、CO2排出回避への貢献など、来場者・企業・行政がともに参加できる共創型の環境アクションとして展開する。

## 3 飲料・容器・水道・暑熱対策が共存する「オール・インダストリー・モデル」

水道インフラ、マイボトル、飲食店などでの飲料提供、粉末・スティック飲料、暑熱対策製品、デジタル案内を組み合わせることで、飲料・容器・水道・環境・健康の各分野が共存する新しい大規模イベント運営モデルを目指す。

飲料を「運ぶ」だけでなく、会場で「くむ」「補給する」体験へと広げることで、物流負荷の低減、来場者の健康行動の促進、横浜の水資源の価値発信を一体的に進める。

## リフィル・サーキュラープロジェクトの全体像



酷暑という課題を、科学・環境・循環の力で解決し、次世代の都市運営モデル「横浜モデル」として発信する。

### Safety

暑熱対策・水分補給・  
暑さ指数WBGT連動  
来場者・スタッフの安全確保

### Environment

水インフラ  
マイボトル・リフィル文化  
水資源の価値発信

### Carbon Neutral

輸送負荷低減・CO2回避貢献  
脱炭素行動の可視化

給水スポットの整備にとどまらず、来場者・スタッフの水分補給行動を促し、マイボトル利用、リフィル文化、脱炭素、資源循環を一体で実装する。

# リフィル・サーキュラープロジェクト



## 主な構成要素

| 要素              | 内容                                                                       |
|-----------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 給水スポット          | 会場内に給水拠点を整備し、来場者・スタッフの水分補給を支援                                            |
| 給水スポット設置の事前検証   | 日本ヒートアイランド学会・国立環境研究所等と連携し、暑熱環境、動線、日射・舗装・緑陰等の条件を踏まえ給水スポットの配置場所や給水場所の環境を検証 |
| マイボトル促進／ボトル洗浄   | マイボトル持参・リフィル行動を促し、衛生的に利用できる環境を整備                                         |
| 暑さ指数WBGT観測／学術連携 | 暑熱環境を計測し。給水配置、暑熱対策効果を検証                                                  |
| KPI可視化          | リフィル回数、CO2回避貢献量、スマート・ハイドレーション率等を発信                                       |

## 参画パートナー（産学官民による連携）

| 区分        | 参画主体・役割                                                                                                               |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| PMO       | GREEN × EXPO協会（公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会）                                                                                  |
| 民間パートナー   | 味の素AGF(株)、象印マホービン(株)、(株)OSGコーポレーション、ウォータースタンド(株)                                                                      |
| 水道関連事業者8者 | メタウォーター(株)、(株)クボタ、コスモ工機(株)、(株)デック、(株)栗本鐵工所、月島JFEアクアソリューション(株)・月島ジェイテクノメンテサービス(株)共同企業体、大成機工(株)、東京ガスエンジニアリングソリューションズ(株) |
| 学術連携      | 日本ヒートアイランド学会、国立環境研究所                                                                                                  |
| 行政        | 横浜市水道局、横浜市資源循環局、横浜市脱炭素・GREEN×EXPO推進局                                                                                  |

7

廃棄物管理

## 廃棄物管理に係る施設の配置

### ●リサイクルステーション、サブストックヤード、メインストックヤードの配置

**R** リサイクルステーション 14ヶ所  
自動販売機付近、飲食施設付近に  
バランス良く配置

**S** サブストックヤード (SSY) 9ヶ所  
外周部、Village集積地、飲食施設  
付近にバランス良く配置

**M** メインストックヤード (MSY) 1ヶ所  
バックヤードの管理動線沿いで  
アクセスの良い場所に配置



#### ➤ リサイクルステーションの役割

- ・来場者から排出される廃棄物を資源として循環させるための分別回収 等

#### ➤ サブストックヤードの役割

- ・参加者が持ち込む廃棄物の分別状態の確認・必要に応じた指導、計量した廃棄物の受入れ
- ・各リサイクルステーションに分別排出された廃棄物の回収・計量 等

#### ➤ メインストックヤードの役割

- ・各サブストックヤードからの廃棄物の受入れ
- ・廃棄物を会場外へ排出するまでの貯留、排出量の計量、収集運搬事業者への引渡し 等

# 廃棄物処理の流れ

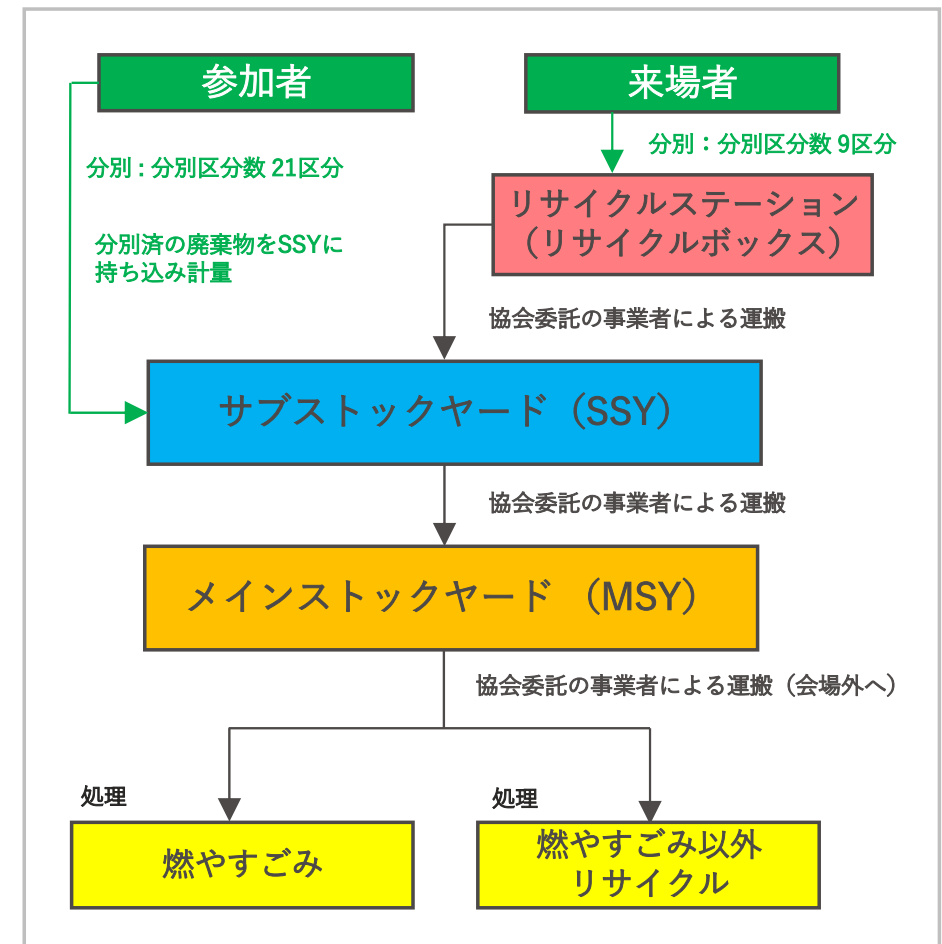
## ●廃棄物処理の流れ【植物管理系廃棄物（植物残さ等）を除く】

- 各リサイクルステーションに分別誘導員を配置し、来場者の分別行為をサポートするとともに、資源循環に関する行動変容を啓発する。



- 来場者は廃棄物をリサイクルステーションのリサイクルボックスに9区分に分別して投入
- 参加者は廃棄物を協会の指定する分別区分にしたがって21区分（一括管理分(※)）に分別し、サブストックヤードに持ち込み計量
- 各サブストックヤードに持ち込まれた廃棄物はメインストックヤードに集約し、会場外の処理施設に運搬
- 燃やすごみは焼却し、燃やすごみ以外はリサイクルする。

(※)一括管理については次ページ参照



# 廃棄物の分別区分

## ●廃棄物の分別区分

### 廃棄物管理の方法

#### 1. 一括管理

- (1) 協会が参加者から委任を受けた排出事業者代表となり、一括して管理を行う方法

#### 2. 個別管理

- (1) 参加者自らが排出事業者として管理を行う方法  
 (2) この場合、廃棄物の品目、排出量、処理内容等を参加者は協会に報告  
 (3) 個別管理となる廃棄物の種類  
 機密文書、潤滑油、エンジンオイル、その他廃油、汚泥、木材 等

### 一括管理対象とする廃棄物の分別区分

- 参加者 21区分  
 ➤ 来場者 9区分  
 検討中の紙おむつを区分すると【10区分】  
 紙おむつはおむつ替えスペースでの回収を想定

- 廃棄物の種類ごとのリサイクル内容については、実施計画の中で具体化

### 【一括管理対象とする廃棄物の分別区分】

|      | 廃棄物の種類                    | 参加者  | 来場者     |
|------|---------------------------|------|---------|
| 1    | 燃やすごみ                     | ●    | ●       |
| 2    | 段ボール                      | ●    | —       |
| 3    | 新聞                        | ●    | ●       |
| 4    | 雑誌（冊子・パンフ等）               | ●    |         |
| 5    | OA用紙                      | ●    |         |
| 6    | ミックスペーパー                  | ●    |         |
| 7    | 食品残渣                      | ●    | ●       |
| 8    | 飲み残し水                     | —    | ●       |
| 9    | ペットボトルキャップ（プラスチック）        | ●    | ●       |
| 10   | ストレッチフィルム（プラスチック）         | ●    | —       |
| 11   | プラスチック                    | ●    | ●       |
| 12   | 発泡スチロール                   | ●    | —       |
| 13   | ペットボトル                    | ●    | ●       |
| 14   | 透明びん                      | ●    | ●       |
| 15   | 色付きびん                     | ●    |         |
| 16   | 缶（アルミ缶・スチール缶）             | ●    | ●       |
| 17   | 金属（鉄・非鉄混合）（業務用缶・スプレー缶を含む） | ●    | —       |
| 18   | アルカリ・マンガン電池               | ●    | —       |
| 19   | その他電池（ボタン型、コイン型、充電電池）     | ●    | —       |
| 20   | 混合廃棄物（ガラス・陶磁器くず、小型家電を含む）  | ●    | —       |
| 21   | 揚げ油（廃食用油）                 | ●    | —       |
| 22   | ショートニング（廃食用油）             | ●    | —       |
| 【23】 | 【紙おむつ】                    | —    | 【●】     |
|      |                           | 21区分 | 9【10】区分 |

8

植物の再利用

## 植物の再利用

会場で使用された植物については、「資源循環の考え方」（2025年3月策定）における①来場者への配布、②公共施設での再利用、③堆肥化を進めるとの方針に沿って対応中。

| 植物の種類  | 所有者 | 基本方針                                                    | 対応状況                                                                                                                                                                                 |
|--------|-----|---------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 花苗、宿根草 | 協会  | 植替（期間中3回）の一定期間後、植物バックヤードに保管している予備苗の一部を来場者に配布。残余の全てを堆肥化。 | 配布：方法の詳細（配布数量、周知方法、配布方法、配布場所・時間等）を整理しつつ、関係者との調整を実施中。<br>堆肥化：推定で約1,600トンの植物残渣の堆肥化を横浜市グリーン事業協同組合に行ってもらうこととし、横浜市への協力要請文書を発出済。現在、抜取株、雑草及び剪定枝の搬入手順等を整理中。整理後、関係者との調整を実施予定。ただし、搬入前の土の除去が課題。 |
|        | 出展者 | 配布のルールを整理して周知。残余については、出展者が「資源循環の考え方」を踏まえつつ適切に対応。        | ルールの整理中。整理ができ次第、出展者等に周知していく。出展者による対応については検討中。                                                                                                                                        |
| 樹木     | 協会  | 神奈川県、県内市町村及び近隣の国営公園のうち希望する団体に譲渡。移植に要する諸費用は譲受側が負担。       | 各方面への意向調査を実施中。                                                                                                                                                                       |
|        | 出展者 | 出展者が「資源循環の考え方」を踏まえつつ適切に対応。                              | 出展者による対応については検討中。                                                                                                                                                                    |

## (前半の説明)

- 1 ISO 20121認証取得
- 2 カーボンニュートラル
- 3 会場内のグリーンインフラ
- 4 持続可能性に配慮した調達コード
- 5 サーキュラーエコノミーの取組
- 6 リフィル・サーキュラープロジェクト
- 7 廃棄物管理
- 8 植物の再利用

## (後半の説明)

- 9 アクセシビリティの取組
- 10 ジェンダー平等・女性活躍推進
- 11 協会内研修
- 12 運営スタッフ研修
- 13 主催者展示
- 14 協会主催テーマフォーラム
- 15 「環共」プログラム
- 16 GREEN×EXPOコンペティション
- 17 エンゲージメント

9

アクセシビリティの取組

## アクセシビリティの取組



GREEN×EXPOでは、「幸せを創る明日の風景」をテーマに、自然・人・社会が共に持続可能な未来の実現と、**誰もが取り残されない共生社会の形成**に寄与し、一人ひとりの幸せな明日の風景につながることを目指している。

運用中

2025年3月公表

### アクセシビリティ・ ガイドライン

国・地域、文化、人種、性別、世代、障がいの有無等にかかわらず、**全ての人々が安全・快適に過ごすことができるよう配慮した整備・運営を行うためのガイドライン。**

推進中

開幕に向けて推進中

### アクセシビリティの実装促進

本博覧会を訪れる**全ての来場者が安心して花や緑とのふれあいを楽しめる環境の実現**に向けた、会場内の施設整備およびサービス導入に関する具体的検討と実施を推進中。

障がい当事者や学識経験者等の参画の下、検討中

# アクセシビリティへの取組

## 当事者へのヒアリング・意見交換

### ◆HPの改善ヒアリング



### ◆サインモックアップ検証



## アクセシビリティへの取組

### 当事者や関係者とのコミュニケーション

#### ◆トUNKトUNK手話



神奈川県聴覚障害者連盟による公式マスコットキャラクター「トUNKトUNK」の手話言語表現の発表会

#### ◆補助犬の紹介



日本補助犬協会による協会職員へ補助犬のご紹介

## アクセシビリティの取組



中央大学とアクセシビリティの質向上に向けた連携を2026年8月より開始。その成果の評価及び今後の活用に向けた提言をレガシーとして発信し、社会での活用・普及につなげることを目的に、連携プロジェクトを始動した。



### 具体的取り組み例：

1. バリアフリーマップ、センサリーマップ、触知マップ及び事前学習ツール等の制作
2. カームダウン・クールダウン／センサリースペースの整備
3. アクセシビリティ向上に資するその他事項

## 「誰もが楽しめるEXPO WEEK」 GREEN×EXPO 2027を“ボーダーレス”に体験

### ■主旨と内容

- 障害者や年齢などの理由で**来場をあきらめている人**や**来場が不安な方**、その家族や友人が、少しでも**安心して移動、来場できる**ように企業、団体、自治体等と連携。
- EXPO参加主体と協力し、会場内で**誰でも楽しめる企画を集中的に実施**。
- **来場できない方々も** GREEN×EXPO 2027を楽しめる企画を実施（動画提供など）
- 期間を特定することでプロモーションやP Rを集中的に行い、より多くの方の関心と来場を促す。同時に、社会における**アクセシビリティの重要性について認知を高める**。
- EXPO前半のWEEKから得られる知見を活かし、会期通した**より魅力あふれる会場づくりを目指す**。

### ■実施時期

雨が少なく暑さが厳しくない 2027年5月初旬～中旬を予定

### GREEN×EXPOを“ボーダーレス”に体験

移動から会場内まで途切れなく安心できる & 会場内で楽しめる

#### 【移動・どこでも】 ユニバーサルツーリズム

- ・会場までスムーズに来場
- ・会場内でスムーズに移動
- ・来場せずともGREEN×EXPOを楽しめる

#### 【会場 参加・経験】 会場を楽しむ、体験する

- ・誰もが楽しめるイベントや企画を実施
- ・この期間ならではのサービス、体験を検討

#### ■連携をお願いしたい企業、団体さま

- ・旅行会社
- ・鉄道各社、バス
- ・タクシー会社、航空会社
- ・空港施設
- ・パラスポーツ協会
- ・特別支援学校 等

# 10

## ジェンダー平等・女性活躍推進

ダイバーシティ & インクルージョン（D&I）を基本方針として掲げ、ダブルアイプロジェクトを実施中。

### 「ダブルアイ」プロジェクトの設置とその目的

GREEN×EXPO 2027は公共性の高いイベントであり、かつ、さまざまな国、組織、人々が参画、共創を折り重ねながら実施される。「幸せを創る明日の風景」というGREEN×EXPO 2027のテーマの実現のためには、とくにダイバーシティ & インクルージョン（多様性と包摂性：D&I）の視点に立ち、多様性を尊重し、多様な人材の知見や参画を活かした取組が必要である。

この背景の下、GREEN×EXPO 2027を、社会全体にD&Iの意識と理解の浸透を図り、自然と共生する未来を描いていく契機とするため、日本の未来を切り拓くキーワードである「**Inclusion（包摂）**」を、一人ひとりが自分ごと「**I（私）**」として捉えることを目指す「**ダブルアイ**」プロジェクトを実施する。EXPOならではのワクワク感や連帯感も醸成。

また、本プロジェクトは、**大阪・関西万博ウーマンズパビリオンのレガシーを継承し**、ポストSDGsおよび次世代へとつなぐ女性活躍・ジェンダー平等推進の取組と位置付ける。そのために、有識者委員会を設置し、多角的な議論を踏まえて未来社会へのメッセージ発信をすることを狙う。

## ダブルアイ・プロジェクトの今後の予定

### ● 会期前イベント

9/24（木）  
AtoWとの共催イベント  
「各国領事と考える世界と私たちの未来像」  
@大阪

2026年3月に実施した国際女性デーに合わせたキックオフシンポジウムに加えて、第2回目のイベント

### ● 会期中イベント

#### ① ウーマンズ・ウィーク

2027年5月11～17日

女性活躍・ジェンダー平等を軸に、多様な人々が能力を発揮できる社会のあり方を考える週間を設定

#### ② ウーマンズ・フォーラム

2027年9月頃予定

統括セッションの開催を検討中

# 11

## 協会内研修

## 協会内研修（ハラスメント等）



### （目的）

時限的組織であるGREEN×EXPO協会においても、

① 働きやすい職場環境の整備、② リスクの未然防止、③ 相談・対応体制の周知のため、毎年度ハラスメント研修およびコンプライアンス研修を実施している。対面、オンライン、アーカイブ受講で全職員が受講できるようにしている。

### （実施内容）

| 日時          | 研修内容                      | 概要                                          |
|-------------|---------------------------|---------------------------------------------|
| 2024年10月28日 | コンプライアンス研修、ハラスメント研修（合同開催） | 倫理規定、情報漏洩、パワハラ、セクハラ、その他ハラスメント、事業主・労働者の責務 など |
| 2025年 8月26日 | コンプライアンス研修                | 反社会的勢力の排除（県警外部講師）、事件事故の報告手順 など              |
| 2025年12月 9日 | ハラスメント研修                  | パワハラ（県外部講師）、SOGI講座（市外部講師）、セクハラ事例紹介 など       |
| 2026年 9月 4日 | 人事研修                      | 組織力向上（外部講師）、ハラスメント事例検討 など                   |

# 12

## 運営スタッフ研修

## GREEN×EXPO 2027の成功を支えるのは「人」

- 国際博覧会の成功は、会場や展示といったハード面だけでなく、来場者と接するスタッフによる運営品質に大きく左右される。
- GREEN×EXPO 2027に関わるメンバーが共通の理念を共有し、一人ひとりがGREEN×EXPOの顔として行動することを目指す。

全スタッフ  
・ボランティア  
・協会全役職員  
・その他関係者  
に対しプログラムを提供

## 人財育成プログラム 3つの柱

### (1) ホスピタリティ

～一人ひとりがGREEN×EXPOの顔～

来場者に寄り添い、期待を超える体験を提供する。

### (2) アクセシビリティ

～誰もが主役になれる博覧会へ～

多様な来場者への理解と対応力を身につける。

### (3) 安全・救命・熱中症対策

～おもてなしの第一歩は、命を守ること～

安全・安心な会場運営を支える。

## 運営スタッフ研修プログラム



|    | 対象者                                                                                | 研修プログラム（予定） |                                    |
|----|------------------------------------------------------------------------------------|-------------|------------------------------------|
| 1  | <b>全スタッフ</b><br>・ ボランティア<br>・ 協会全役職員<br>・ その他関係者<br><br>eラーニング<br>対面または<br>オンライン研修 | 共通          | GREEN×EXPO 2027基本理念/基礎知識           |
| 2  |                                                                                    | ホスピタリティ     | ホスピタリティマインド醸成（日本航空協賛）              |
| 3  |                                                                                    | アクセシビリティ    | アクセシビリティ基礎知識（学識経験者・当事者団体協力）        |
| 4  |                                                                                    |             | アクセシビリティ基礎研修（日本航空協賛）               |
| 5  |                                                                                    | 安全・救命・熱中症   | 防災・安全基礎知識（消防局協力）                   |
| 6  |                                                                                    |             | AED講習（協賛予定）                        |
| 7  |                                                                                    |             | 熱中症対策アンバサダー講座（協賛予定）                |
| 8  | <b>リーダー層／<br/>現場責任者対象</b><br><br>オンライン研修<br>対面研修                                   | ホスピタリティ     | 接遇スキル強化研修／チームビルディング／クレーム対応（日本航空協賛） |
| 9  |                                                                                    | アクセシビリティ    | アクセシビリティ基礎研修＋専門研修（日本航空協賛）          |
| 10 |                                                                                    |             | アクセシビリティ実技研修（学識経験者・当事者団体協力）        |
| 11 |                                                                                    | 安全・救命・熱中症   | 救急・救命／防災・安全実技研修（消防局協力）             |
| 12 |                                                                                    |             | 職場における熱中症予防（協賛予定）                  |

# 13

主催者展示

## 環境・生態系テーマの展示（主催者展示）

### ■ 展示にて、生物多様性の損失や気候変動等への危機感、自然と人とのつながりを取り上げることを開幕に向けて準備中

- テーマ館  
最新の映像技術と展示技術を用いて、植物の真の姿とともに、地球の限界に対する自然を活用した解決策を知る展示を準備中
- 園芸文化館  
日本の誇る伝統園芸植物を通じて、人と植物のつながりとともに、多様な植物資源を未来に継承する必要性を知る展示を準備中
- 屋外展示  
Village等のコンセプトに沿って、植物と人のつながりを感じる植栽、体験プログラム、ワークショップ等を準備中

### テーマ館や園芸文化館の進捗状況



テーマ館では、植物の真の姿を通じて、人と植物のつながりを考える機会とするためのコンテンツを準備中。コンテンツを紹介するウェブサイトは3月に開設



来館者に配布するシードペーパー®

園芸文化館では、伝統園芸植物を通じて、人と植物のつながりを考える機会とするためのコンテンツを準備中。コンテンツを紹介するウェブサイトは4月に開設



# 14

協会主催テーマフォーラム

- 協会主催催事として、GREEN×EXPO 2027のテーマに沿ったフォーラムを、会期前から会期中にかけて継続的に展開。
- サステナビリティ関係事項の遵守に加え、日英同時通訳やユニバーサル対応など、アクセシビリティの確保も念頭に準備を進めている。

## フォーラムテーマ(例)

### 園芸博テーマを多角的に掘り下げ、発信・展開

テーマ例:

- ◆ 都市・ライフスタイル  
「自然とともに暮らす未来の都市」
- ◆ 食と農の未来  
「いのちをつなぐ食と農の新しい循環」
- ◆ グリーン産業の未来  
「環境価値を基盤とした未来産業の開拓」

経済  
イノベーション

人口減少  
少子高齢化社会

文化・教育

次世代  
インクルージョン

## 対象者(想定)

### 来場者層に合わせたプログラムを設計

#### 一般来場者層

- テーマを平易かつ親しみやすく発信
- 行動変容や関心喚起につながる体験・学びを提供

#### コア関心層

- 国際動向や専門的知見に基づく議論を展開
- 分野横断的な対話による新たな示唆・共創を促進

# 15

## 「環共」プログラム

## 地球と共にー「環共」プログラム



GREEN×EXPOを共に創り上げるための参加型の取組として、地球と共にー「環共」プログラムを実施。カーボンニュートラルやネイチャーポジティブ、サーキュラーエコノミーをはじめとしたテーマに関するプログラムを市民の皆様や団体、企業、学校等から公募（現在、公募中）。

| プログラム名 | レッツグリーンアクション<br>実践者と楽しむ活動体験                                                                                          | レッツグリーンクラス<br>専門家と考える公開講座                                                                                                   |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 概 要    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「環共市民」を実践する市民団体、個人などによる参加・体験プログラム</li> <li>・ワークショップ、体験型展示、セッションなど</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学や研究機関など各分野の専門家によるわかりやすく楽しい「環共市民」入門講座</li> <li>・各分野の専門家による中高生から一般向け公開講座</li> </ul> |
| 募集期間   | 7月21日（火）～10月2日（金）                                                                                                    | 9月7日（月）～10月16日（金）                                                                                                           |
| 募集数    | 100組程度                                                                                                               | 300講座程度                                                                                                                     |

SATOYMA  
Village内活動拠点



# 16

## GREEN×EXPOコンペティション

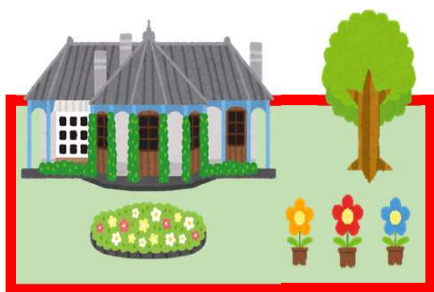
## GREEN×EXPOで実施するコンペティション



- 特別規則第14号（2026年6月16日承認）において、公式参加者及び非公式参加者を対象として、以下の3種類のコンペティションを公式なコンペティションとして実施することを規定。
- 庭園コンペティション及びGREEN×EXPOコンペティションは、出展契約と同時に自動エントリーとなる。
- 生產品コンペティションは、別途エントリー手続きが必要。

### 庭園コンペティション

- ・ 国際園芸博覧会では従来から実施されてきたコンペティション
- ・ 展示全体のデザイン、製作技術、使用素材など園芸・造園の観点から優れた展示を表彰するコンペティション
- ・ 出展形態や出展規模別にクラスを設定して審査を行う



- 出展契約と同時に自動エントリー
- 対象者：公式参加者/非公式参加者

### GREEN × EXPO コンペティション

- ・ 本博覧会において初めて実施するコンペティション
- ・ 地球規模課題の解決に向けた意識・行動変容のきっかけを与える、グリーンインフラ、新産業、グリーンコミュニティなどの観点から発信内容に優れた展示や演出を表彰するコンペティション
- ・ サブテーマを踏まえた表彰部門を設定



- 出展契約と同時に自動エントリー
- 対象者：公式参加者/非公式参加者

### 生產品コンペティション

- ・ 国際園芸博覧会では従来から実施されてきたコンペティション
- ・ 展示を構成している花きやフラワーアレンジメント、盆栽等の個々の作品を審査対象として実施するコンペティション
- ・ 春夏秋の季節ごとに様々な出品クラスを設定して審査を行う



- 出展契約後**エントリー手続きが必要**
- 対象者：公式参加者/非公式参加者

## 表彰内容

○各部門の表彰内容は以下のとおり。

○公式参加者における「Green Partnership賞」は、Green CommunityとGreen Partnershipを合わせた内容となる。

| 部門名<br>[該当テーマ]                             | 表彰内容                                                                                                    |
|--------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>Green City</b><br>[Co-adaptation]       | 都市と自然が調和し互いを補完するような取組を評価する。例えば、自然の価値そのものを認識し、グリーンインフラや自然の機能を都市設計に取り込み、都市と自然が共存する暮らしを表現した展示を表彰。          |
| <b>Green Community</b><br>[Co-existence]   | 緑と農を通じて人々が互いに支え合い、心身の健康を目指す暮らしの基盤を共に作る“共助”の姿を評価する。例えば、市民参加・食・伝統文化などと結びついた展示を表彰。                         |
| <b>Green Innovation</b><br>[Co-creation]   | 園芸・農業を起点に、新たな価値・産業・サービスを創出・振興する取組を評価する。例えば、新品種、付加価値商品の開発、産業横断的連携（医療・福祉・芸術等）などを表現した展示を表彰。                |
| <b>Green Partnership</b><br>[Co-operation] | 国や地域、団体、企業、市民など多様な主体が連携して知識や資源を共有し、平和・多文化共生や地球規模課題解決に貢献する取組を評価する。例えば、多様な主体が共同で行う研究、教育・環境活動などを紹介する展示を表彰。 |

## 賞体系、審査委員会



### < 賞体系と審査委員会 >

| カテゴリー  | 出展期間 | コンペティションのクラス<br>(=表彰単位) | 審査対象数*1            | 審査回数              | 審査委員会名称                              | Green City | Green Partnership | Green Innovation | —                 | —               |
|--------|------|-------------------------|--------------------|-------------------|--------------------------------------|------------|-------------------|------------------|-------------------|-----------------|
| 公式参加者  | 全期間  | 標準型(屋外出展)               | 15程度               | 会期中<br>1回<br>(6月) | GREEN審査委員会<br>BIE1/AIPH1<br>/協会5 計7名 | 1          | 1                 | 1                | —                 | —               |
|        |      | インターナショナル<br>ガーデン(屋外出展) | 50程度               |                   |                                      | 1          | 1                 | 1                | —                 | —               |
|        |      | 屋内展示共同施設                | 20程度               |                   |                                      | 1          | 1                 | 1                | —                 | —               |
| カテゴリー  | 出展期間 | コンペティションのクラス<br>(=表彰単位) | 審査対象数*1            | 審査回数              | 審査委員会名称                              | Green City | Green Community   | Green Innovation | Green Partnership | Green Selection |
| 非公式参加者 | 全期間  | 非公式参加者<br>(全期間)         | 212                | 会期中<br>1回<br>(6月) | GREEN専門審査<br>委員会 (全期間)<br>協会 5 計 5 名 | 6          | 6                 | 6                | 6                 | —               |
|        | 短期間  | 非公式参加者<br>(短期間)         | 平均9者/週<br>(最大22小間) | 出展初日<br>× 28週     | GREEN専門審査<br>委員会 (短期間)<br>協会 3 計 3 名 | —          | —                 | —                | —                 | ~60*2           |

\*1 26年7月時点

\*2 SR14第9条に基づく褒賞、  
GREEN EXPO会長名義での賞

## 【参考】特別規則第14号（日本語仮訳）（抜粋）



### 第1条～第3条（略）

#### 第4条 コンペティションのカテゴリーと褒賞

1. 本条におけるコンペティションを、本博覧会における唯一公式のものとする。
2. 褒賞は、いかなる場合も金銭的な性格を持たないものとする。
3. コンペティションは、大きく3つのカテゴリーに分けられる。

##### （1）公式参加者

以下の2つのコンペティションがある。

- ・ GREEN×EXPOコンペティション
- ・ 庭園コンペティション

##### （2）非公式参加者

以下の2つのコンペティションがある。

- ・ GREEN×EXPOコンペティション
- ・ 庭園コンペティション

##### （3）全ての参加者

以下の1つのコンペティションがある。

- ・ 生產品コンペティション

4. 開催者は、一般規則第1条に定める博覧会のテーマである「幸せを創る明日の風景」やサブテーマをよく表現し、貢献した上で、各コンペティションのそれぞれの主旨に合致した展示や演出を行った公式参加者に褒賞を授与する。

##### （1）GREEN×EXPOコンペティション

気候変動、食料問題、生物多様性の損失など地球規模課題の解決に向けた意識・行動変容のきっかけを与える、グリーンインフラ、新産業/新技術、共助/多様な主体の連携などの観点から発信内容に優れた展示や演出を表彰するコンペティションである。

##### （2）（略）

5. 前項のコンペティションの賞体系は次のとおりとする。

##### （1）GREEN×EXPO コンペティション

以下の出展形態ごとに、3部門の褒賞を授与する。

- ・ 標準型（屋外展示スペース）
- ・ インターナショナルガーデン型（屋外展示スペース）
- ・ 屋内展示共同施設

##### （2）（略）

##### 6～8（略）

9. 第4条に基づく褒賞は、閉会式の前日に授与されるものとする。

#### 第5条 審査委員会の構成

1. 褒章の審査は、審査委員会の下で行われる。
2. 審査委員会は以下のとおりコンペティションごとに組織する。それぞれの審査委員会は独立して審査を行うこととし、審査委員は重複しない。

##### （1）GREEN×EXPOコンペティション審査委員会

第4条第5項（1）の賞の受賞者を決定するため、審査委員長を含む7名で構成する。審査委員は、テーマに関連する分野又は持続可能な社会実現に関連する分野の専門的な知識を備え、国際的な評価を得ている者とし、次の者で構成される。選出された委員は、自国または所属する組織の利益を代表せず、その個人的能力で行動するものとする。

- ・ BIEが指名する1名
- ・ AIPHが指名する1名
- ・ 開催者が指名する5名の委員

##### （2）（略）

#### 第6条から第8条（略）

#### 第9条 その他のコンペティション及び褒賞

開催者は、第4条に基づく褒賞以外の賞を与えることができる。手続きの詳細は、必要に応じて、開催者が別途発表するものとする。

# 17

## エンゲージメント

# 定例会見・プレスリリース等メディアリレーションズ強化



メディアとの継続的な関係構築のため、6月より会見を定例化。プレスリリースについても積極的に配信するとともに、取材対応等による露出も増加中。今後、コンテンツ準備の進展とともに、リリース案件の急増を見込み、きめ細やかなメディア対応体制構築に向けて取り組んでいるところ。メディアでの情報発信と双方向のコミュニケーション等により、園芸博のテーマやサステナビリティに関するメッセージを広く発信。



## <定例会見>

6月22日、7月8日、8月5日、9月2日

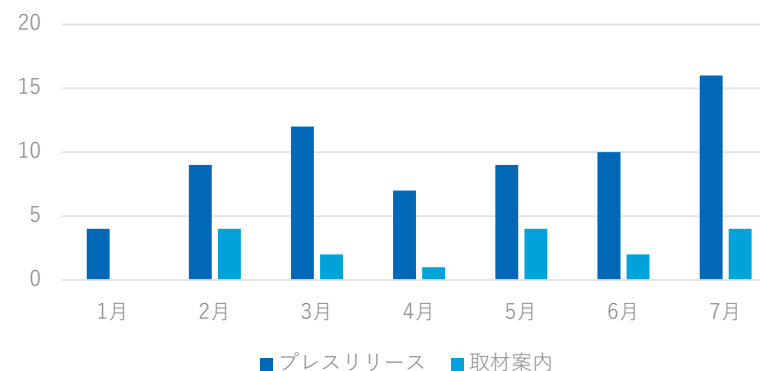
## <IPM後会見>

6月30日

## <メディアブリーフィング>

3月10日、6月4日、7月17日

プレスリリース・取材案内 (2026年)



# GREEN×EXPO 2027 先取セッション



GREEN×EXPO 2027が発信する地球課題解決へのアプローチを、最新情報を交えながら、主催者・出展者・有識者によるトークセッション等を通じて紹介する「GREEN×EXPO 2027 先取りセッション」を共催しています。

**GREEN×EXPO 2027 先取りセッション vol.1**  
 GREEN×EXPO 2027の魅力と最新情報を  
 主催者・パビリオン出展企業・専門家のクロストークで紹介

主催 SWiTCH 共催 EXPO 2027 渋谷未来デザイン

日時 2026年6月17日 (水) 16:30~18:30 (受付16:00~) 参加費無料  
 会場 SHIBUYA QWS 東京都渋谷区渋谷二丁目24番12号渋谷スクランブルスクエア 15階  
 開催形式 ハイブリッド開催 (対面限定60名) <https://forms.gle/525GwSL8HhXGdFEYg>

**THEME**  
 生態系がもたらす1年あたりの経済的価値は約5,260兆円とされており、世界全体のGDP(約96兆円)の約55倍。私たちは経済的な豊かさを主体とした対比的な充足から、質的成熟社会への転換期を迎えています。2027年に開催される「GREEN×EXPO 2027」の魅力と最新情報を主催者・パビリオン出展企業・テーマ営業出展企業・専門家が紹介するクロストークを渋谷で開催します。第1回のテーマは「グリーンインフラ」。コンクリートなどの人工構造物に頼らない、自然が持つ機能活用の最前線を知りましょう。

**TIMETABLE**  
 16:30~17:30 トークセッション  
 ・登壇者からの情報共有  
 ・パネルディスカッション  
 ・質疑応答  
 17:30~18:30 ブース紹介&交流会  
 ・ブース出展企業1分ピッチ  
 ・交流会

**SPEAKERS**  
 高橋 隆一氏 GREEN×EXPO委員会 委員長兼実行委員長  
 高橋 真氏 東京大学 環境プロジェクト推進 特任教授  
 小山田 隆氏 東邦レオ株式会社 グリーンシフト推進 事業開発リーダー  
 小松 裕幸氏 清水建設株式会社 環境経営推進室 グリーンシフト推進 室長兼エグゼクティブ  
 佐座 慎苗氏 (一社) SWiTCH 代表理事  
 脇坂 隆一氏 GREEN×EXPO協会 推進戦略室長

|       |                                          |
|-------|------------------------------------------|
| イベント名 | GREEN×EXPO 2027 先取セッション (全3回シリーズ)        |
| 主催    | 一般社団法人 SWiTCH                            |
| 共催    | 公益社団法人 2027年国際園芸博覧会協会<br>一般社団法人 渋谷未来デザイン |
| 開催形式  | 会場 (渋谷区付近) とオンラインのハイブリット形式               |

| 2026年6月17日 (水)<br>16:30~18:30                                                                                                                            | 2026年10月23日 (金)<br>16:30~18:30 | 2027年1月 (調整中)               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|
| テーマ：グリーンインフラ                                                                                                                                             | テーマ：バイオフィリックデザイン               | テーマ：食と農 (調整中)               |
| <b>【トークセッション登壇者】</b><br>・横張 真 (東京大学 統括プロジェクト機構 特任教授)<br>・小山田 哉 (東邦レオ株式会社)<br>・小松 裕幸 (清水建設株式会社)<br>・佐座 慎苗 (一社) SWiTCH代表理事<br>・脇坂 隆一 (GREEN×EXPO協会 推進戦略室長) | <b>【トークセッション登壇者】</b><br>調整中    | <b>【トークセッション登壇者】</b><br>調整中 |

6/17の開催案内チラシ

## 「グローバル・ネイチャーポジティブ・サミット2026」へ参加



- 2026年7月14日－15日に熊本「グローバル・ネイチャーポジティブ・サミット2026」に参加、展示会「NATURE TECH！」ステージ、メインホールにてリレートーク等に登壇。熊本で初、機運醸成を展開。
- 日本における生物多様性に関する国際会議は、2010年の生物多様性条約締約国会議（愛知県）以来、16年ぶり。日本及び27か国から約2,700名が参加し、熊本宣言を公表。このテーマへの関心の高さが示された。
- オープニングでは筒井経団連会長及び国土交通省金子大臣が、クロージングでは農林水産省山下副大臣がビデオメッセージにて、この機運を熊本から横浜につなげるとした。



オープニング  
(メインホール)

国土交通省金子大臣による  
ビデオメッセージ



展示会「NATURE TECH！」ステージ

GREEN×EXPO 2027 をご紹介するとともに、14の関連組織と一緒に、熊本から横浜へGREEN×EXPO 2027の機運醸成をつなぐことを表明



日本生命との協会のリレートーク登壇  
(メインホール)

GREEN×EXPO2027での体験を行動変容につなげ、ともにレガシーを創り上げていきたいと呼びかけ。

# GREEN×EXPO 2027 共創ミーティング



名称 GREEN×EXPO 2027 共創ミーティング  
～大阪・関西万博から、新しい協働へ～

日時・場所 2026年8月27日 16:00～19:00／横浜市開港記念会館

開催趣旨 大阪・関西万博に関わってきた市民団体と、横浜・神奈川で活動する団体が出会い、それぞれの経験や課題を共有しながら、これからの協働について考える

## 参加団体

### ● SDGs万博市民アクション（主催）8 団体

※ 関西を中心に活動する主要参加団体が、6 分科会に分かれ、大阪・関西万博をSDGs達成の視点から点検・評価

NPO法人 AMネット、(公社) 大阪自然環境保全協会、(社福)大阪ボランティア協会、NPO法人関西NGO協議会、(公財) 公害地域再生センター(あおぞら財団)、ごみ減量ネットワーク、NPO地域づくり工房、NPO法人とよなかESDネットワーク

### ● 横浜・神奈川地域で活動する団体 6 団体

NPO法人アクションポート横浜、ヨコハマゼロワン、(一財)地域・人間環境フォーラム、NPO法人よこはま里山研究所(NORA)、NPO法人新治里山「わ」を広げる会、(一社)ソーシャルコーディネートかながわ、NPO法人横浜NGOネットワーク



## 当日プログラム

- SDGs万博市民アクションの取組紹介
- GREEN×EXPO2027におけるサステナビリティの取組紹介 (GREEN×EXPO協会)
- 横浜・神奈川地域で活動する団体による実践紹介
- 参加者同士による対話・交流セッション

## 第3回「人・自然・生命」シンポジウム 次世代に贈る社会～パラダイムシフト～



- ✓ 1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の基本理念の継承、GREEN×EXPO 2027に向けた機運醸成を目的とした、(公財)国際花と緑の博覧会記念協会との連携シンポジウムシリーズの第3回
- ✓ 今回は日本では34年ぶりとなる国際園芸学会議（IHC2026）とも連携し、学会最終日に京都市内で開催



- 1 日時：2026年8月28日（金）13：00～15：30
- 2 会場：京都府立京都学・歴彩館 大ホール（京都市左京区）
- 3 内容：

○基調講演 ミズーリ植物園園長 ルシア・ローマン氏

○パネルディスカッション

コーディネーター

GREEN×EXPO ラボ チェアパーソン 涌井史郎氏

パネリスト

日本大学生物資源科学部教授 窪田 聡氏

千葉大学大学院園芸学研究院准教授 竹内 智子氏

東急不動産株式会社 サステナビリティ推進部部長 松本 恵氏

庭師・俳優 村雨 辰剛氏



